



2021-22
国際ロータリーテーマ



奉仕しよう みんなの人生を
豊かにするために

Rotary
シェカール・メータ

2021~2022年度 標語 諫早西ロータリークラブ
「ビジョンを持って繋げよう未来へ」 会長 毎熊 正太郎



第1713例会 2021年 9 月 29 日例会記録 NO.10 天候 晴れ

【本 日】会員数 46名 出席 41名 欠席 2名 出席扱い 3名 免除 0名 出席率 95.66%
【9/22】会員数 46名 出席 46名 欠席 0名 (MU 0名) 免除 0名 出席率 100.00%

来 訪 者



ビジター

ガバナー 塚崎 寛 様
第8グループガバナー補佐 森 栄一郎 様
地区幹事 岡田 康信 様
地区副幹事 森崎 良昌 様

ゲスト

今川 秀樹 様 (株)西原商会九州 長崎営業所

会長の時間



毎熊 正太郎 会長

皆様こんにちは！26日に行われましたロータリー奉仕デーは、眼鏡橋周辺の清掃を行いました。会員の皆様には多数出席をしていただきありがとうございました。又、社会奉仕委員会の方、大変お疲れ様でした。

今年は、ちょうど諫早西ロータリークラブにおいて「諫早公園つつじ満開プロジェクト」が始動しています。

子供の頃は、つつじが咲くと良く花見などで、市民が集まり楽しんだものです。諫早公園をつつじ満開にして次世代の子供へとつなげましょう。私たちはもう孫といっしょに花見が楽しめればいいですね！

26日清掃をしていた時、眼鏡橋の池に1羽のサギがいました。足に釣り糸がからみ片足で立っていました。餌をやっている女性に話を聞くと、「行政の方もなかなか動いてくれずかわいそうで」と言っていました。

例会後にサギ捕獲救出作戦を予定しておりましたが、もう亡くなっておりました。非常に残念でした。

会 長／毎熊 正太郎 幹 事／江嶋 利満 創立日／昭和60年2月20日 認証日／昭和60年3月5日
例会場／平安閣 諫早サンプリエール(毎週水曜日) 〒854-0053 諫早市小川町71-1 TEL (0957) 24-3907
事務局／諫早商工会議所内 〒854-0016 諫早市高城町5番10号 TEL (0957) 22-3323
会報委員／野中 英己・友永 俊介・平野 義信・久保 泰正・浦江 芳征
HP/<http://isahaya-west.com> E-mail/info@isahaya-west.com



金城 会員
(株)西原商会九州 長崎
営業所 所長を離れるため、
最後のご挨拶。



今川 様
新しい(株)西原商会九州
長崎営業所 所長の今川です。



塚崎ガバナーよりロータリーバッチの贈呈

【ロータリーバッチ贈呈】

😊 スマイルボックス 😊

毎熊正太郎君：塚崎ガバナーの御来訪を歓迎致します。
江嶋 利満君：塚崎ガバナーの御来訪を歓迎致します。
辻本 善樹君：塚崎ガバナーと森ガバナー補佐の御訪問
ありがとうございます。
草野 恵介君：塚崎ガバナーの御来訪を歓迎致します。
早田 和彦君：塚崎ガバナー、ようこそ西 RC へ。
平野 義信君：塚崎ガバナー、本日は御指導宜しくお願い
致します。
友永 俊介君：日曜日の諫早公園清掃お疲れ様でした。
山崎 祥弘君：ガバナー公式訪問歓迎します。御指導の
程宜しくお願いします。
野中 英己君：塚崎ガバナー、森ガバナー補佐、岡田地区
幹事、森崎副幹事ようこそ、諫早西ロー
タリークラブへ！本日は楽しみにしており
ます。ごゆっくり歓談して下さい。9 月
26 日の環境美化プロジェクト諫早公園
の清掃ご苦労様でした。大変きれいになり
ました。お疲れ様でした。
森 由有君：塚崎ガバナー、森ガバナー補佐、内田地区
幹事、諫早西 RC へ御来訪有難うござい
ます。本日は宜しく御指導お願い致します。
塚原 浩三君：塚崎ガバナー、森ガバナー補佐、地区
幹事、副幹事の御来訪ありがとうございます。これから
も御指導の程、宜しくお願いします。
荒木 公義君：塚崎ガバナー、御来訪ありがとうございます。社会奉仕部門の諫早公園の清掃、
お疲れ様でした。

平 武君：本日の公式訪問お疲れ様です。御指導
宜しくお願いします。
古賀 秀次君：塚崎ガバナー公式訪問有難うございます。
柏木 恒文君：金城君短い間でしたが、ありがとうござ
いました。今川君ようこそ、宜しくお願い
します。
立野 守君：塚崎ガバナー、森ガバナー補佐、地区
幹事、副幹事御来訪有難うございます。
宜しくお願いします。
原田 典範君：塚崎ガバナーの御来訪を歓迎致します。
小野 秀喜君：塚崎ガバナーの御来訪を歓迎します。
吉次 良治君：塚崎ガバナー、ようこそいらっしゃいま
した。歓迎致します。森ガバナー補佐、
クラブ協議会では御指導有難うございま
した。追伸、先日の結婚祝ありがとうございました。37 回と発表しましたが、
36 回でした。妻からいやみを言われました。
久保 泰正君：塚崎寛ガバナーの公式訪問歓迎致します。
先週は森栄一郎ガバナー補佐のクラブ
協議会ご出席ありがとうございました。
またクラブよりお見舞いありがとうございました。公式訪問を記念してニコニコ
します。

本日の合計 (9/29)	累 計 額
¥ 7 3,0 0 0	¥ 3 6 0,6 2 0

塚崎 寛ガバナー公式訪問



ロータリーの友9月号『基本的教育と識字率向上』より抜粋

どれだけ利子がつくかな 読書の通帳

宇佐 2001 ロータリークラブ

宇佐 2001RC はこのたび、クラブ創立20周年記念事業の一環として、「読書の通帳」など一式を、宇佐市民図書館に寄贈しました。「読書の通帳」とは、金融機関の通帳と同じ形式のもので、本の貸し出し日、タイトル、著者、価格などが最大 336 冊分、図書館の記帳機で印字できるものです。

私たちのクラブは創立以来、青少年奉仕を主要活動としてきました。健全育成のため「子どもボランティア観光ガイドの養成」や、図書館での「読み聞かせの会」、図書バッグの定期的な寄贈など、多種多様な形で活動を実施してきています。

この通帳を先行して導入した他の図書館では、本の貸し出しが大幅に増えたそうで、この実績を踏まえ、今回の記念事業の柱に通帳の寄贈を据えました。結局、通帳 5,000 冊と記帳機 1 台、図書バッグ700個を無償で配布することに。

やっかん
市立駅館小学校児童会長の松田絢乃さん、同副会長の川浦実佳さんが早速、記帳を体験しました。松田さんは「たくさん本を借りて国語力を上げたい」と話しています。
(第 2720 地区・大分県)

通帳を見れば、どれだけたくさん本を読んだか一目で分かり、達成感も得られます。



◆ロータリークラブの基本

ガイ・ガンディカーが「ロータリークラブの構成と目的」として掲げた四つのうち、今回は第1と第2について、考察したいと思います。この2つはクラブ運営に関わるもので、彼はロータリーの基本（Fundamental Rotary）であり、クラブリーダーの責務であると述べています。

第1の「会員一人一人の向上」について、ガイは「ロータリークラブが会員に対して果たすべき役割である」と明記しています。その具体的内容は、以下の通りです。

- 1) 会員同士が事業経営上の経験を交換し合い、視野・見識が広がるようにしてあげること
- 2) 会員の思考の幅を広げ、向上心を喚起させること
- 3) 奉仕の心を涵養^{かんよう}せしめること
- 4) 自己発展の最大の可能性が得られるように支援すること
- 5) 優れた社会的指導者に育てること

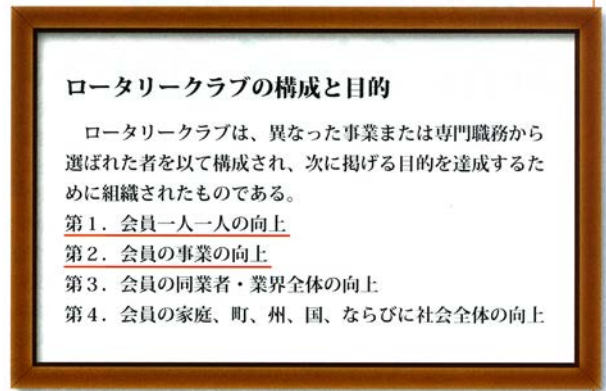
この5項目を読んで、米山梅吉の「例会は人生の道場」という言葉を思い出した方も少なくないでしょう。現代流に言い換えれば、「①事業経営や社会生活上の視野・見識向上に役立つ交流と会員スピーチ、②多様な学びと意欲の喚起、③奉仕の心の育成、④自己の成長・発展、⑤リーダーシップの育成」となるのでしょうか。

ここで私は、あえてクラブ会長の皆さんに問いたい。「あなたのクラブでは、これらが十分に意識され、かつ満たされている例会が開かれていますか」と。会員増強と会員維持の最大の足かせは、例会のマンネリ化や退屈さです。それは、ガイが活躍していた100年前から今に至るまで、もちろん将来も含めて、変わることはないでしょう。それだけに、クラブ会長にとっては例会の充実こそが最重要責務であり、目指すべきは上記の5項目であることを銘記してほしいと思います。

次に、第2の「会員の事業の向上」について、ガイは現実面と理想面の二つに分けて述べています。

現実面＝ロータリー活動を通して会員間に友情に満ちた親密な付き合いが生まれ、取引増加の機会が与えられる（ただし、与えられるものは、取引増加の「機会」だけである）。

理想面＝ロータリー活動を通して、事業における高い倫理基準と正しい経営方法が体得できる。そして、個人



生活、事業生活、社会生活など全ての場で実践すべき規範・手本でもあり、かつ職業倫理全般にも通じる「奉仕という生き方（ロータリーの理想）」を会員一人一人が学び合い、実践することで、事業が向上・発展する。

前半の現実面は、普段のロータリー活動を通じて「信頼」や「人柄」が認められ、そこに親密な友情が芽生えれば、「商取引増加の機会」に恵まれたロータリーを生かせるようになり、自己の事業の向上・発展にもつながる、という意味です。この内容は、新会員には必ず説明してほしいと思います。なお、最後に記した「ただし、与えられるものは……」について、ガイは「ロータリアン同士の商取引は、ロータリーの義務ではない。本質でもない。存在理由でもない。あくまで商取引増加の『機会』があるというだけで、それは単なる付随的な要素にすぎない」と説明しています。要するに、「ロータリー創立以来の目的の一つであった『実業互恵』からの脱却」を求めているのです。

一方、後半の理想面は、ロータリー活動を通じて「事業推進に必要な倫理および経営方法」と「奉仕という生き方（ロータリーの理想）」を学び、それらを日常生活の中で実践すれば、やがて事業は向上・発展する、という意味です。ロータリーにおける「会員の事業の向上」を、現実面と理想面から述べたガイの見識には脱帽です。これは、100年たった今でも変わらないロータリーのあるべき姿ではないでしょうか。

コラム文責 鈴木 一作（寒河江 RC）
（第 2800 地区パストガバナー）